



東江先生和尺牘

不許
翻刻

春宴帖

東都書肆 藻雅堂藏



來十七日
 春三月
 月十日
 每
 日

うたふらふあまのついでに
園持ふらふあまのついでに
たのむらふあまのついでに
あまのついでに
あ

三月十五日

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あはれ縁のこ

ぬり出候は可

陰縁おのゝ縁

川流おのゝ縁

のゝ縁おのゝ縁

あはれ縁のこ

仲素

學子能之廣雅又出園
子切梅生之由因之

明自得之出機之成
雅拙之在深之知以
之之亦知而君子之
集一編一編之雅

移興...
...
...
...

三月

...

...

子て出たる難有る事
時様行の拙意心書
強ち此を以て執三三
行極く少時之は行
流るるを来しその
此大概おるなりと云ふ

子て出たる難有る事
時様行の拙意心書
強ち此を以て執三三
行極く少時之は行
流るるを来しその
此大概おるなりと云ふ

能くもやうと
あしはなをみよ
まじり中を
人のまをいふ
るまをいふ
まをいふ

あまをいふ
まをいふ
まをいふ
まをいふ
まをいふ
まをいふ

功くおるる地とあはれ
有ぬと願ふとふれ
之目也

此のころはねん

孫山平あなれ
能くおるる
是のころはねん
おるる
おるる

香中子解一醉如乐
可也酒香之批也
夜解世而今也
臨之也
四月下

雨餘春草綠萋萋

滿地飛花踏作泥可

惜風光看欲老杜

鷓鴣啼 送夕陽 西

右惜春

東江源 籛



Handwritten text in cursive script (草書) on the left page, consisting of several vertical columns of characters.

後心出子如樣之樣
以只々々出外法必
幸得心之

五月

+

花 高田氏

後心之種葉之好
中為其來安之人
出心之出心之出心
指之出心之出心

福徳の及ぶ所を以て
海に似て 尚ほ其の
海に似て 尚ほ其の
海に似て 尚ほ其の
海に似て 尚ほ其の
海に似て 尚ほ其の

出物 其の如く
此の如く 其の如く
其の如く 其の如く
其の如く 其の如く
其の如く 其の如く
其の如く 其の如く

秋の風は涼しい
水は清い
山は青い
木は緑い
花は赤い
鳥は鳴く
虫は鳴く
魚は泳ぐ
雲は白く
空は青く

花は赤い
鳥は鳴く
虫は鳴く
魚は泳ぐ
雲は白く
空は青く
山は青い
木は緑い
水は清い
秋の風は涼しい

かきとふしなまはるしあはる

らる

い

けらるるあはる

るる無山あはる

かきとふしあはる

めまの甲あはる

まのいふあはる

田新保あはる

Handwritten musical notation on a black background with white lines. The notation consists of several staves of wavy lines, characteristic of early Western musical notation. The staves are arranged in a slightly curved, fan-like pattern across the page.

Handwritten musical notation on a black background with white lines. The notation consists of several staves of wavy lines, characteristic of early Western musical notation. The staves are arranged in a slightly curved, fan-like pattern across the page.

新晴秋涼海
城山出屏
山出屏
山出屏
山出屏
山出屏

Handwritten text in cursive script, possibly a calligraphic exercise or a poem, written on a dark background with white ink. The text is arranged in several lines, some of which are slanted.

好々々十回あるは
積り出捺合の事
何々々十々の事
何々々るる事
先々々々々々々

好々々々々々々
好々々々々々々
好々々々々々々
好々々々々々々
好々々々々々々

東坡先生

十月十日

空山歸隱之清
經像經

空山歸隱之清
經像經
空山歸隱之清
經像經
空山歸隱之清
經像經
空山歸隱之清
經像經

又平身起一箇字
お徳しん此後少日此風
流し出来此無佳計
面白く一箇字起又一種

かゝる字起一箇字起
き流し出来此無佳計
お徳しん此後少日此風
流し出来此無佳計

韓擇木史略則
李潮蔡者隣
吾石のわもか
い
梅のささ
徳傳えら

七代の子孫は修智
福のささ
おの
て
門
説

此乃其所以也
其所以也

此乃其所以也

此乃其所以也
其所以也
其所以也
其所以也
其所以也
其所以也
其所以也
其所以也

了也尔... 宗道... 此...
...
...
...

十月

...
...
...
...

加...
...
...

一...
...
...

...
...
...

師誇多名曰出後

年極心因之輕

少之至之流之建心

日海之流之乃習刀

孫指致之進之之

也極細之之了

了の如くはるるの如く

此の如くはるるの如く

此の如くはるるの如く

此の如くはるるの如く

十一月

持信の如くはるるの如く

今之世建元子之
此法公規其有
昔能成其能其
二物之色却其
此法其法其法

今之世建元子之
此法公規其有
昔能成其能其
二物之色却其
此法其法其法

東江先生首唱古法書其碑
版尺牘海內所寶也唯國字
札多出門生代書余遍物色
其門獲真蹟若干首因摸刻
以布世或譏余以龍斷固所

不避也未知邇來禽堂時負
罪如何耳

安永三年八月望

須嘉祐謹識



藏板目錄

東都書肆藻雅堂 舟木嘉助

江戸日本橋平松町

大史華句	明本翻刻 三冊	東江先生和文章 艸書	至知編	西郊先生著 一冊
西遊紀行	熊谷州先生著 二冊	同 禪林役牌	四須陳人詩集	三冊
經義折衷	金我先生著 一冊	同 書則	效華集	年習少詩ヲ諸 名家ニ乞テア 一冊
經義緒言	同作 一冊	同 尺牘帖	画談雞肋	高陽先生著 三冊
易學辨義	同作 一冊	同 艸書千字文	觀藝首譚比考	同作 一冊
匡正錄	同作 一冊	同 文艸	蘭亭帖	子昂行書 石摺
金我先生文集	七冊	同 詩艸	宮詞百首	後藤先生著 一冊
狂齋先生原子	二冊	高陽先生詩稿	來青軒詩稿	長州岡先生著 二冊

扇卦 寫字便用

一收摺

青樓美人合

江本春信画

龍田帖

二冊

祇部類 皇月平砂

一冊

祇部類

皇月平砂

龍田帖

一冊

學則 徂來先生墨跡

石摺

無寬錄

唐本和解

難經古義

二冊

周易五卦之圖

復軒先生著

龍田帖

松尾先生著

寺澤今川

一冊

白雲館各詩集 台州先生

醫學平言

藍溪劉先生著

詩箋

唐紙

白紙

華樣

品々

卦本

和紙

唐紙

品々

安永二年癸巳秋八月
江戸書肆鑒書房 刻

須原屋市兵衛
同 嘉 助

